

## 5.誘電体導波路

$\mu_r = 1$ の誘電体導波路を考える。このとき、次の関係がある。

$$\varepsilon_r = n^2 \quad (n : \text{屈折率})$$

### 5.1.誘電体スラブ導波路の伝搬定数決定方程式

二次元導波路では伝搬定数の厳密解が得られる。

$n_1 > n_2, n_3$ とする。 $n_1$ と $n_2$ 及び $n_1$ と $n_3$ の境界における電磁界接線成分の連続条件から、次のようにして特性方程式が導出される。

#### (a) TE モード ( $E_x, H_y, H_z$ )

スラブ導波路では $x$ 方向に変化がないので $\frac{\partial}{\partial x} = 0$ となる。また、 $z$ 方向に伝搬するとして、 $z$ 方向依存性は $e^{-j\beta z}$ とおけば、マクスウェルの方程式は次のように書き下すことができる。

$$\frac{\partial H_z}{\partial y} + j\beta H_y = j\omega\varepsilon E_x \quad (5.1.a)$$

$$-j\beta H_x = j\omega\varepsilon E_y \quad (5.1.b)$$

$$-\frac{\partial H_x}{\partial y} = j\omega\varepsilon E_z \quad (5.1.c)$$

$$\frac{\partial E_z}{\partial y} + j\beta E_y = -j\omega\mu_0 H_x \quad (5.2.a)$$

$$-j\beta E_x = -j\omega\mu_0 H_y \quad (5.2.b)$$

$$-\frac{\partial E_x}{\partial y} = -j\omega\mu_0 H_z \quad (5.2.c)$$

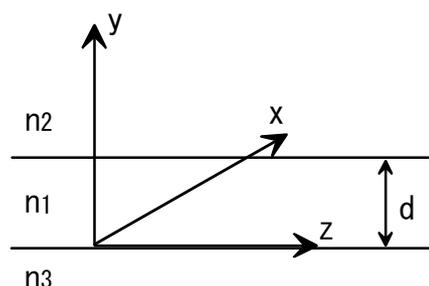


Fig.5.1 誘電体スラブ導波路

(5.1.a)、(5.2.b)、(5.2.c)を整理すると、次の波動方程式を得る。(5.1.b)、(5.1.c)、(5.2.a)とは独立)

$$\frac{\partial^2 E_x}{\partial y^2} + (\omega^2 \varepsilon \mu_0 - \beta^2) E_x = 0 \quad (5.3)$$

(5.3)の解として、 $E_x$ は次のようにおくことができる。ただし、境界 $y = 0, d$ において $E_x$  (電界の接線成分) が連続になるように各領域の係数を選んでいる。

$$E_x = \begin{cases} (A \cos ud + B \sin ud) e^{-w_2(y-d)} & : y \geq d \\ A \cos uy + B \sin uy & : d \geq y \geq 0 \\ A e^{w_3 y} & : 0 \geq y \end{cases} \quad (5.4)$$

$$\begin{aligned}
w_2 &= \sqrt{\beta^2 - n_2^2 \omega^2 \varepsilon_0 \mu_0} = \sqrt{\beta^2 - n_2^2 k_0^2} \\
u &= \sqrt{n_1^2 \omega^2 \varepsilon_0 \mu_0 - \beta^2} = \sqrt{n_1^2 k_0^2 - \beta^2} \\
w_3 &= \sqrt{\beta^2 - n_3^2 \omega^2 \varepsilon_0 \mu_0} = \sqrt{\beta^2 - n_3^2 k_0^2} \\
k_0 &= \omega \sqrt{\varepsilon_0 \mu_0} = \frac{2\pi}{\lambda}
\end{aligned}$$

さらにもう一つの境界条件“境界  $y = 0, d$  に接する磁界成分  $H_z = \frac{1}{j\omega\mu_0} \frac{\partial E_x}{\partial y}$  が連続”であることを課し、係数 A、B がともにゼロになることが無いことから、次の特性方程式が導かれる。

$$\tan ud = \frac{u(w_2 + w_3)}{u^2 - w_2 w_3} \quad (5.5)$$

(b)TM モード ( $H_x, E_y, E_z$ )

同様に、(5.1.b)、(5.1.c)、(5.2.a)を用いると次の特性方程式が導かれる。

$$\tan ud = \frac{\frac{u}{n_1^2} \left( \frac{w_2}{n_2^2} + \frac{w_3}{n_3^2} \right)}{\left( \frac{u}{n_1^2} \right)^2 - \frac{w_2 w_3}{n_2^2 n_3^2}} \quad (5.6)$$

ここで、TE モード ((5.1.a)、(5.2.b)、(5.2.c)で決まる) と TM モード ((5.1.b)、(5.1.c)、(5.2.a)で決まる)は、互いに独立に存在する。

(c)対称スラブ導波路

特別な場合として、 $n_2 = n_3$  の場合は、

$$\tan 2u \frac{d}{2} = \frac{2uw}{u^2 - w^2} = \frac{2 \frac{w}{u}}{1 - \left( \frac{w}{u} \right)^2} \quad (\text{TE mode}) \quad (5.7)$$

$$w = w_2 = w_3$$

より、次式を得る。

$$\tan^2 \frac{ud}{2} + \left( \frac{u}{w} - \frac{w}{u} \right) \tan \frac{ud}{2} - 1 = 0$$

$$\left( \tan \frac{ud}{2} - \frac{w}{u} \right) \left( \tan \frac{ud}{2} + \frac{u}{w} \right) = 0$$

したがって、特性方程式は次の2式に分離することができる。

$$\tan \frac{ud}{2} = \frac{w}{u} \quad (\text{even mode}) \quad (5.8.a)$$

$$\tan \frac{ud}{2} = -\frac{u}{w} \quad (\text{odd mode}) \quad (5.8.b)$$

## 5.2. 単一モード条件

式(5.5)は次のように変形できる。

$$\begin{aligned} \tan ud &= \frac{\frac{w_2 + w_3}{u}}{1 - \frac{w_2 w_3}{u^2}} \\ ud &= \tan^{-1} \frac{w_2}{u} + \tan^{-1} \frac{w_3}{u} + m\pi \end{aligned} \quad (5.9)$$

ここで、 $n_2 = n_3$  の場合は  $w_2 = w_3 = w = \sqrt{\beta^2 - n_2^2 k_0^2}$  として

$$u \frac{d}{2} = \tan^{-1} \frac{w}{u} + \frac{\pi}{2} m$$

すなわち、

$$\sqrt{n_1^2 k_0^2 - \beta^2} \frac{d}{2} = \tan^{-1} \frac{\sqrt{\beta^2 - n_2^2 k_0^2}}{\sqrt{n_1^2 k_0^2 - \beta^2}} + \frac{\pi}{2} m \quad (5.10)$$

これを次のように変形する。

$$\begin{aligned} \sqrt{n_1^2 k_0^2 - \beta^2} &= k_0 \sqrt{n_1^2 - \frac{\beta^2}{k_0^2}} = k_0 \sqrt{(n_1^2 - n_2^2) + n_2^2 - \frac{\beta^2}{k_0^2}} = k_0 \sqrt{n_1^2 - n_2^2} \sqrt{1 - \frac{\frac{\beta^2}{k_0^2} - n_2^2}{n_1^2 - n_2^2}} \\ \frac{\sqrt{\beta^2 - n_2^2 k_0^2}}{\sqrt{n_1^2 k_0^2 - \beta^2}} &= \frac{\sqrt{\frac{\beta^2}{k_0^2} - n_2^2}}{\sqrt{n_1^2 - n_2^2}} \\ &= \frac{\sqrt{\frac{\beta^2}{k_0^2} - n_2^2}}{\sqrt{1 - \frac{\frac{\beta^2}{k_0^2} - n_2^2}{n_1^2 - n_2^2}}} \end{aligned}$$

ここで、規格化伝搬定数を  $b = \frac{\frac{\beta^2}{k_0^2} - n_2^2}{n_1^2 - n_2^2}$  で定めると、 $n_2 k_0 < \beta < n_1 k_0$  であるから、規格化伝搬定数は  $0 < b < 1$  の範囲の値をとりえる。規格化伝搬定数を用いて、式(5.10)は次のように整理できる。

$$\frac{d}{2} k_0 \sqrt{n_1^2 - n_2^2} \sqrt{1-b} = \tan^{-1} \frac{\sqrt{b}}{\sqrt{1-b}} + \frac{\pi}{2} m \quad (5.11)$$

式(5.11)の根  $b$  は、左辺と右辺の交点として求まる。 $0 < b < 1$  に対して、 $\tan^{-1} \frac{\sqrt{b}}{\sqrt{1-b}}$  は

$0 < \tan^{-1} \frac{\sqrt{b}}{\sqrt{1-b}} < \frac{\pi}{2}$  の範囲で変化するので、式(5.11)が  $m=0$  以外に根を持たない条件は、

$\frac{d}{2}k_0\sqrt{n_1^2 - n_2^2} < \frac{\pi}{2}$  となる (式(5.11)の左辺の最大値が  $\frac{\pi}{2}$  より大きくなる条件)。すなわち、これが  $n_2 = n_3$  の対称スラブ導波路中を一つのモードだけが伝搬可能な条件 (単一モード条件) となる。

ここで、 $V = \frac{d}{2}k_0\sqrt{n_1^2 - n_2^2}$  は、導波路の V 値 (V パラメータ) と呼ばれる。

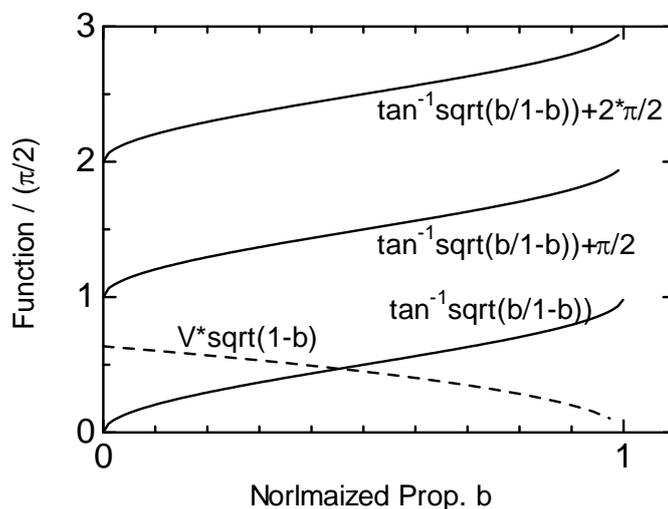


Fig.5.2 対称スラブ導波路 (TE モード) の特性方程式の解